

2022年学術大会における大会長賞受賞者の言葉とさらなる
学会誌の発展をめざしてProspect for Advanced Cultivation on Journal of INDOOR ENVIRON-
MENT with Prize Winners at 2022 Annual Meetings of the SIEJ森田 洋^{1,3)*}, 池田四郎^{2,3)}¹⁾北九州市立大学国際環境工学部²⁾株式会社ガステック³⁾一般社団法人室内環境学会 出版委員会

室内環境学会学術大会（2009年までは研究発表会）では、これまで大会長賞として優秀と認められた口頭発表者及びポスター発表者に対して表彰が行われてきました。江戸川区総合文化センターにて開催された2022年学術大会では「室内環境の未来をつむぐ」という大会テーマのもと、国際シンポジウムや分科会セミナーなどに加え、63件の口頭発表と60件のポスター発表が行われました。2020年、2021年大会ではコロナ禍ということもあり、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、ポスター発表も実施されませんでした。2022年大会では社会状況の変化により、ポスター発表が再開し、発表・討論も会場を中心とした形に変更されたことから、より一層の活発な議論が繰り広げられました。

大会長賞は優秀な口頭発表に対して贈られる「優秀口頭発表賞」及び「大会技術賞」と優秀なポスターに対して贈られる「優秀ポスター賞」及び「ポスター発表努力賞」があります。いずれも審査委員会委員が審査基準に従い採点を行い、その結果に基づき受賞者を決定しています。ポスター賞は大会初日の国際シンポジウム後に表彰式が執り行われ、大会2日目には受賞者のポスターに受賞の証となるリボンが付けられていましたが、口頭発表については大会2日目の午後まで行われていましたので、受賞者の決定は学会機関誌である「室内環境」の本号にて発表されています。また2022年大会に参加できなかった会員の方々も多くおられたと思いますので、本特集では口頭発表やポスター発表で受賞された方々の紹介も兼ねて「受賞者の言葉」をお届けしたいと思います。受賞者の方々が展開されている研究内容はも

ちろんのこと、着想やまとめ方などにつきましてもご覧いただければと存じます。

そして今回の学術大会で発表された皆様へ出版委員会からお願いがございます。今回の発表内容を是非、「室内環境」誌に投稿していただきたいと考えております。室内環境学会は多岐にわたる専門分野においてご活躍の学会員の皆様で構成されております。学術大会ではそれぞれのご発表に対して会場から様々なお質問やご意見を受けたことかと思いますが、これらの議論をもとにご研究をより深化させていただき、原著論文としてとりまとめていただければ幸いです。これにより学術大会がより価値の高いものとなり、学会誌や学会の発展に大きくつながるものと考えております。「室内環境」の査読はリジェクトが目的ではなく、どこを修正すればアクセプトできるかについて助言をする姿勢での取り組んでおります。出版委員会としては皆様のご研究の成果が「室内環境」の掲載論文となるよう、積極的なお手伝いのできればと考えております。

また、研究における新しい発見や価値のあるデータをより短くまとめたものに「短報」というカテゴリーがあります。本誌に短報として投稿される方は少なく、「原著論文としてのボリュームはないけど、先駆けて早く発表したい」という方には是非ご活用いただければと考えております。

最後になりましたが、本特集にあたってご多忙の中にもかかわらず快く執筆をお引き受けいただきました受賞者の方々、そして本特集にご理解とご協力をいただきました2022年室内環境学会学術大会大会長の萬羽郁子先生に心より御礼を申し上げます。

*Corresponding author (責任著者) E-mail: morita@kitakyu-u.ac.jp, Tel: 093-695-3289